

令和5年(2023年)9月15日 14:00	
資料提供	
担当課	和歌山県立博物館 学芸課
担当者	学芸員 島田和
連絡先	〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14 Tel: 073-436-8684 Fax: 073-423-2467 Mail: admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp

◀重要文化財 仏涅槃図 浄教寺蔵

——明恵が生まれた地、伝説が芽吹くところ——

「生誕 850 年記念特別展 紀州・明恵上人伝」の開催について

承安3年(1173)紀伊国有田の地に、湯浅党の祖・湯浅宗重を祖父として、明恵上人は生まれました。神護寺や東大寺で教学を極め、梅尾高山寺を華嚴の道場として再興したことで知られますが、故郷とのつながりはその生涯にわたります。明恵の没後、弟子の喜海は上人の行状記をまとめ、紀州での日々を支えた湯浅一族とともに「明恵上人紀州八所遺跡(国指定史跡)」を定めました。本展では、生前の明恵の足跡をたどりつつ、故郷を舞台に生まれた伝説、花開くゆかりの美術や芸能を通して、明恵讃仰の歴史を紐解きます。

【展示構成】プロローグ 明恵上人誕生 / I 紀州にて：つとめ・はげみ・もとめ・いのる

II 梅尾より：思想はかたちに / III 伝説へ：信仰の武士団と春日の神 / エピローグ 慕うところ

展示資料総数 122件 172点(うち国宝1点、重文14点、和歌山県指定34点、有田市指定5点、湯浅町指定13点、有田川町指定9点、広川町指定5点、岸和田市指定1点)

会期 令和5年10月14日(土)～11月26日(日) 月曜休館 38日間

会場 和歌山県立博物館 常設展示室・企画展示室

開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

入館料 一般830円(680円)、大学生520円(410円)

※()内は20人以上の団体料金

※高校生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方(同伴者を含む)・県内在学中の外国人留学生は無料。

※関西文化の日(11月18日(土)・19日(日))・ふるさと誕生日(11月22日(水))は無料。第1日曜日は有料。

関連企画 ①記念講演会：10月21日(土)、10月28日(土)

②博物館講座：11月12日(日)、11月23日(木・祝)

いずれも14時～15時30分 / 会場：県立近代美術館2階ホール

③ミュージアム・トーク(展示解説)：10月15日(日)、11月5日(日)、11月25日(土)

13時30分～ / 会場：当館1階展示室

※詳細はチラシをご覧ください

主催 和歌山県立博物館

後援 有田市・有田市教育委員会・湯浅町・湯浅町教育委員会・有田川町・有田川町教育委員会

添付資料：チラシ、展示構成と主な出陳資料

画像データは、下記のアドレスにご連絡いただければ送付いたします。

admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp(博物館メールアドレス)

生誕850年
記念特別展

紀州明恵上人伝

展示構成と主な出陳資料

プロローグ 明恵上人誕生

湯浅の一族に生まれ生涯にわたって故郷とのつながりをもち続けた明恵上人は、亡くなる前年、湯浅に施無畏寺を開きます。施無畏寺は湯浅一門の寄進と誓いによって創建され、そのことを記す「湯浅景基寄進状」は、紀州・明恵上人伝の最も重要な瞬間の資料とも言えるでしょう。釈迦を父と慕い、紀州で厳しい修行に励み、湯浅一族のために何度も祈りを捧げた明恵の人となりをご紹介します。

- 和歌山県指定文化財 明恵上人坐像（施無畏寺蔵）
- 国宝 明恵上人歌集（京都国立博物館蔵）



施無畏寺開山堂の明恵上人像は青年の姿



思うままに和歌を詠んだ明恵、湯浅の町を「ワマチ」と歌う

- ・重要文化財 湯浅景基寄進状（施無畏寺蔵）
- ・重要文化財 湯浅景基寄進状（大谷大学博物館蔵）

I 紀州にて つとめ・はげみ・もとめ・いのる

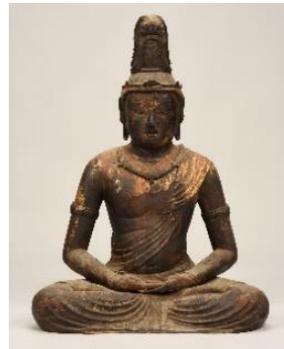
青年期の明恵は京都で活動するかたわら、いくども故郷の紀州に戻り、修行を重ねました。弟子や仲間とともに過ごした研鑽の日々のことは、弟子の記録や明恵の夢日記、京都の高山寺に納められる經典類などからつぶさに明らかになります。10年間で、白上・筏立・糸野・星尾・神谷・崎山・宮原などの拠点をもって過ごしていましたが、その背景にはいつも「ワ（が）マチ」と愛した故郷の一族がありました。

- i 湯浅党と明恵
- ii 白上・筏立：十地を超えて
- iii 糸野・星尾：海の向こうに
- iv 神谷・崎山・宮原：一門の祈禱師

- 重要文化財 仏涅槃図（浄教寺蔵）
- 重要文化財 大日如来坐像（浄教寺蔵）



釈迦を慈父と慕い、独自の涅槃会を究め続けた



湯浅一族のため、神谷や崎山で祈りを捧げる

- ・重要文化財 文殊菩薩像（高山寺蔵）
- ・十六国大阿羅漢因果識見頌・明恵上人筆夢記（個人蔵）
- ・金師子章光頭鈔 卷上・下（永観堂禅林寺蔵）

II 梶尾より 思想はかたちに

建永元年（1206）、明恵は後鳥羽院より高山寺の地を賜り、華嚴宗の寺として再興します。ここで、紀州にいたころに考えをめぐらせていた思想や構想が、次々と著作になり、かたちになっていくのです。その思想は、華嚴と密教の要素をあわせもつ意味で「嚴密」と呼ばれます。名高き高僧となって後も故郷への想いとつながりは絶えることなく、示寂の前年、ついに施無畏寺の創建を迎えます。

i 梶尾山高山寺 ii 故郷とつながる iii 補陀落山施無畏寺

●蘇婆石・鷹島石（高山寺蔵）

・明恵上人像（持経像）（久米田寺蔵）

・湯浅町指定文化財 春日明神立像（施無畏寺蔵）



故郷の島で拾った石を大事に所持

III 伝説へ 信仰の武士団と春日の神

明恵が没した4年後の嘉禎2年（1236）、弟子の喜海は、上人の修行地と誕生地に卒塔婆を建てることを発願します。この明恵上人紀州八所遺跡の成立は、まさに明恵上人の「伝説化」として機能し、これを率いた湯浅党は「信仰の武士団」というべき存在でした。明恵が起こしたさまざまな伝説のなかで、とりわけ春日明神の託宣の奇瑞は、中世の春日明神・龍神信仰と相俟って鮮やかに造形され、能「春日龍神」といった芸能の世界にも発展していきます。

i 八所遺跡の成立 ii 生誕地・歓喜寺 iii 湯浅宗業の発心 iv 春日龍神

●和歌山県指定文化財 高弁遺跡卒塔婆銘注文（施無畏寺蔵）

・重要文化財 地蔵菩薩坐像（歓喜寺蔵）

・重要文化財 星尾寺縁起（高山寺蔵）

・重要文化財 春日龍珠箱（奈良国立博物館蔵）

・能狂言画帖（神戸女子大学図書館）

・春日権現験記絵（春日本） 卷一七・卷一八（春日大社蔵）



明恵上人紀州八所遺跡に建てる卒塔婆の注文書

エピローグ 慕うところ

有田の地に今も生きる、明恵上人讃仰の営み。それは幾度もの遠忌をめぐって、繰り返し、脈々と由緒が語り継がれてきた歴史を物語ります。本展では、国指定史跡「明恵上人紀州八所遺跡」とゆかりの文化財をつなぐ、明恵上人を慕うところの過去・現在・未来にも目を向けます。

i めぐる遠忌 ii 夢の跡つぎ